



The *WALT DISNEY* Company

CSR  
(企業の社会的責任)  
レポートアップデート

2018年度

# 役員からの メッセージ

ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーは、世界で最も有名な企業のひとつに数えられます。ディズニーの名が世界に知られる理由は、創造性とイノベーションの限界に挑戦し、世界中の人々を楽しさと驚きで包みこむ素晴らしいエンターテインメント体験を創出しているからです。また、ディズニーが世界で最も尊敬され、賞賛される企業のひとつと認識されているということも、等しく重要なことです。したがって、それが何であっても、ディズニーという名前のつくものにはすべて、当社のコミットメントが伴います。それは、常に倫理的に行動し、責任を持ってコンテンツ制作や製品製造を行い、お互いを尊敬し合う職場を維持し、地域社会に投資すると共に、環境の良き守り手となることです。

ディズニーの事業目標と戦略を、良き企業市民となるというコミットメントと連動させることは、「できればいい」ということではありません。それはディズニーにとって、ビジネス上不可欠なことなのです。消費者は、企業に対し、目的を持って行動すること、また、彼らにとって重要な問題に率先して解決に当たるリーダーであることを求めるようになりつつあります。ディズニーは、会社が置かれている事業環境と経営環境のいずれにおいても、企業の社会的責任（CSR）に対するコミットメントをしっかりと根づかせることが重要であると認識しています。ディズニーが事業活動を展開する世界は今、環境や社会、地理・政治的にも大きな変化を迎えています。長期的な経済的成功を達成するには、こうした要素を考慮するとともに、ディズニーのコミットメントを基に、持続可能な未来を実現する戦略を策定し注力していく必要があります。

2018年を振り返ると、ディズニーにおけるCSRへの取り組みにとって節目の年となったことを、私は誇りに思います。ディズニーは、環境への負荷を軽減し、地域社会に雇用創出という形で生産性をもたらし、製品を倫理的な方法で製造することにより、公正な企業であり続けるための努力を費してきました。同時に、慈善活動への取り組みを、最大の効果をもたらすことができると考えられる他の分野にも広げる決断をしました。

3月、ディズニーは、全社的なコミュニティアウトリーチと慈善活動を兼ねた新たなイニシアチブである「ディズニー・チ

ム・オブ・ヒーローズ」の創設を発表しました。ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーは、「ディズニー・チーム・オブ・ヒーローズ」イニシアチブを通じ、今後5年間に1億ドルをかけて、世界中の小児病院の子供たちとその家族に幸せと感動を届けることに取り組みます。ディズニーの資産と企業としての能力を最大限に活用することで、時代を超えた魅力を持つストーリーを斬新な形で現実世界に再現し、若い患者さんとその家族が入院生活中に感じるストレスを和らげます。初の試みは、2019年4月にヒューストンのTexas Children's Hospitalで開始されます。その後、全米・全世界の小児病院にも拡大していく予定です。さらに、2018年中は、中国の小児病院にディズニーをテーマにしたプレイルームを継続して設置しました。ロンドンではGreat Ormond Street HospitalにDisney Reefを開設し、Hong Kong Children's Hospitalではディズニーをテーマにした患児向けのパジャマを発表しました。

また、2018年には、環境への配慮に対するディズニーの取り組みをさらに進める大きな一歩を踏み出しました。当社は事業を遂行し、事業を成長させる上で、天然資源を有効活用しながら地球環境も守ることに重点を置いています。2018年度は水使用量の目標を達成する以上の成果を上げ、飲料水の使用量を2013年度のレベルに維持できました。計画を上回る事業成長を達成したにもかかわらず、2018年度は2013年度と比較して水使用量を約6%削減しました。2018年7月、ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーは、2019年半ばまでに全世界の所有・運営施設において、プラスチック製の使い捨てストローとマドラーを廃止すると発表しました。年間でストローは1億7,500万本以上、マドラーは1,300万本の削減を目指しています。さらに、今後数年間で、ホテルやクルーズ船のルームアメニティを詰替可能なものに置き換え、客室のプラスチック製品を80%まで削減することも発表しました。また、全世界の所有・運営事業所でポリスチレン製カップを廃止する取り組みも完了しつつあります。こうした取り組みは、使い捨てのプラスチック製品を削減するというディズニーの長期的な努力の一環です。

昨年、ディズニーは映画「ブラックパンサー」を全世界に公開しました。

現在までに、本作は記録的な興行成績（13億ドル以上）を

あげ、映画史上トップ10にランクインしています。文化現象となっただけではなく、多様な文化に根ざした映画は世界的なヒット作にはなり得ないという長年の通説を覆す大ブームを巻き起こしました。「ブラックパンサー」は最新の事例として、作品内容、制作サイド、事業セグメント全体にわたる多様性と受容性に対する戦略的な注力が、どれほど意識の革新を推し進め、かつ事業としての興行成績をも押し上げるかを示しています。

消費者は、ディズニーの企業活動を強く注視しています。ディズニーは常に、ディズニー・ブランド製品の生産現場において、互いを受け入れ尊重し合う安全な職場環境作りに努めています。昨年9月、当社は「サプライチェーン投資プログラム」を通じて最新の投資ラウンドを発表しました。これは、全世界のサプライチェーンにおける体系的な労働問題に対処するスケーラブルなソリューションの開発を目的としています。2012年以降、ディズニーは全世界の革新的なプロジェクトに約1,900万ドルを投資してきました。

2018年、いくつもの自然災害が地域社会に甚大な被害をもたらしました。災害発生後、直ちにディズニーとその従業員が対応したという事実を、心から誇りに思います。ハリケーン・フロレンスは、南北キャロライナ州を横断しながら地域住民にかつてないほど壊滅的な被害をもたらしました。しかし、ディズニーは即時に圧倒的組織力で対応し、窮地にあっても人々が力を合わせ、互いに支え合えば、非常に大きな成果をもたらすことができるという好例を示すことができました。ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーはハリケーン被災者を経済面で支援し、避難所、緊急物資、医療支援、食事の提供、その他の人命救助活動などに全力で取り組みました。さらに、ABCテレビジョングループ8局の集中的な報道と強い働きかけにより、視聴者に電話やオンラインでの寄付を通じて支援を促すことができました。また、ディズニー従業員による寄付には、ディズニー従業員マッチングギフトプログラムを通じて、寄付額と同額が上乗せされました。このマッチング寄付は、昨年1年間に慈善団体に対して行われた3億3,200万ドルを超える寄付の一部となっています。

私たちは、これら一連のこと、そしてその他多数の貢献を非常に誇りに思っています。そして、ディズニーのコミットメントとイニシアチブが、当社のビジネスとその地域社会に最も大きく影響を与える分野を中心に展開されるよう、引き続き尽力します。こうした継続的な取り組みの基盤は、企業としての強い価値観と受け継いできた精神に加え、ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーの幅広いリーチと資源を反映しています。良き企業市民であろうとする当社の努力にご協力とご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。皆様には、今年度の実績を謹んでお知らせいたします。来年の目標達成を目指し、引き続き、私たちを取り巻く世界にポジティブな変化をもたらす方法を探りながら、当社が世界に与えるポジティブな影響力を最大限に引き出す新たな機会も模索していきます。

どうぞよろしくお申し上げます。

*Christie McLachlan*

クリスティン M. マッカーシー  
シニア・エグゼクティブ・バイスプレジデント兼最高財務責任者  
ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニー



“私たちはディズニーのコミットメントとイニシアチブを、私たちのビジネスと地域社会に最も大きく影響を与える分野を中心に展開していきたいと考えています...”

# 2018年度の目標に対する実績

私たちは、社会的に責任のある公正な企業を営むという仕事は、現在の当社に利益をもたらす長期的な投資であり、将来、世界中の子供たちや家族を支えていく上で、さらに大きな影響を及ぼす可能性があると考えています。目標は、達成度を測定し、当社の目指す方向性を明確にする重要なツールです。私たちは目標を定期的に評価して、全体的な戦略的ビジョンとの整合性を確認していきます。

## 目標の定義

**ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーの事業年度に基づきます（目標が暦年で報告されていることが明記されている場合を除きます）。**

目標の日付はすべて、特に明記されない限り、ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーの事業年度末（10月開始、9月終了）を言います。例えば、目標に「2018年まで」と記載されている場合は、2018年度末（2018年9月末）を指します。

**大胆かつ常に更新と修正の対象になります。**

目標設定は静的なプロセスではありません。設定した目標の実行可能性と有用性は、継続的に評価されます。

**意欲的かつ達成可能な目標です。**

こうした目標の一部は、当社の飽くなき向上心を表しています。時に、努力を行ったにもかかわらず、市況やその他の条件によって、こうした目標の達成が難しくなる場合もあります。

**期限を定め、将来を見据えた目標です。**

本レポートには、将来を見据えた目標が掲載されています。こうした目標は不確実性の影響を受けることがあり、その達成を保証するものではありません。事業上の優先順位とその他の外部要因の変化に従って、調整される場合もあります。



## 環境に関するもの

- 温室効果ガス排出量  進行中
- CO2排出  進行中
- 水  達成

## ボランティアをした時間

- VolunteerEARSに使用した時間  進行中

## ヘルシー・リビング

- ライセンス商品販売  進行中
- 食品販売  進行中
- グローバル広告  進行中



# 対象

## 温室効果ガス排出量

### 目標



進行中

2020年まで

2012年の総排出量から直接排出量を50%削減します。

2018年

直接排出量を2012年の排出量から44%削減しました。

## ゴミ排出

### 目標



進行中

2020年まで

埋立処分と焼却の対象となる廃棄物の60%削減を達成します。

2018年

テーマパーク&リゾート、スタジオ、オフィスなどの所在地から発生した事業廃棄物について、54%の転換率を達成しました。

## 節水

### 目標



達成

2018年まで

既存施設において、飲料水消費量を2013年時点のレベルで維持していきます。新しい施設の水保全計画を策定します。

2018年

2013年度のベースラインと比較して、飲料水の使用量を5.8%削減しました。上海ディズニーリゾートでは、水保全計画を策定しました。

## ボランティアをした時間

### 目標



進行中

2020年まで

Disney VoluntEARSプログラムを通じて、従業員が地域社会に500万時間のボランティア活動を行います。

2018年

35周年を迎えたDisney VoluntEARSを通じて、技術、時間、労力を提供する形で60万100時間以上のボランティア活動が行われました。2012年以降、Disney VoluntEARSを通じて合計約400万時間のボランティア活動が行われています。

## ヘルシー・リビング

### 目標



進行中

2020年まで

グローバルでライセンスされた日常食品卸販売り上げが、当社の栄養成分に関するガイドラインに適合する割合を85%に引き上げ、北米では85%の目標達成を継続します。

2018年

北米では、引き続き85%のガイドラインに適合しています。また、2018年は全世界で85%のガイドライン適合目標を達成しました。



進行中

2020年まで

全世界で子供向けのメディアプラットフォームと、ディズニーが保有する幼い子供のいる家族向けのオンラインサイトにおいて、ディズニーが管理する広告にはすべて、当社の栄養成分に関するガイドラインに適合する食品と飲料を掲載します。

2018年

米国でこの目標が達成されました。世界各地でこの目標の達成が進んでいます。



# データ表

環境への配慮	2018年 <sup>1</sup>	2017年	2016年
直接的な排出量 <sup>2,3,9</sup> (CO <sub>2</sub> 換算トン)	897,523	843,195	866,219
間接的な排出量 <sup>2,3,9</sup> (CO <sub>2</sub> 換算トン)	1,027,874	1,034,240	912,877
直接的・間接的な排出量の合計 <sup>2,3,9</sup> (CO <sub>2</sub> 換算100万トン)	1.93	1.88	1.78
CO <sub>2</sub> 排出枠の償却 <sup>4,5</sup> (CO <sub>2</sub> 換算トン)	892,769	804,859	685,706
正味排出量 (CO <sub>2</sub> 換算100万トン) <sup>2,3,4,5,9</sup>	.98	1.03	1.09
総エネルギー (MWh) <sup>6,9</sup>	5,907,648	5,826,719	5,518,223
埋立廃棄物および焼却廃棄物の総転換率 (トン) <sup>7</sup>	54%	46%	45%
水使用 (飲料水10億ガロン) <sup>8,9</sup>	6.46	6.9	7.04

## 戦略的な社会貢献活動

企業としての寄付 (現金、100万米ドル) <sup>10</sup>	\$103.7	\$104.5	\$101.0
企業としての寄付 (現金以外の支援、100万米ドル) <sup>10</sup>	\$229.1	\$244.1	\$301.1
VoluntEARSに使った時間	600,100	486,600	542,800

職場	2018年 <sup>1</sup>	2017年	2016年
全世界の従業員 <sup>11,12</sup>	183,677	180,154	178,985
マイノリティ比率 <sup>12</sup> (米国、従業員)	42%	42.8%	40%
マイノリティ比率 <sup>12</sup> (管理職、米国)	25.1%	25.3%	24.4%
女性比率 <sup>12</sup> (全世界の従業員)	53.1%	52.9%	52.7%
女性比率 <sup>12</sup> (管理職、全世界)	43.4%	43.2%	43%
マイノリティ、女性、身体障害者、退役軍人、傷病退役軍人、LGBT が所有する営利企業に対する直接支出総額 (100万米ドル) <sup>13</sup>	\$554.7	\$432.7	\$478.6
提供されるトレーニング数 (重複なし) <sup>14</sup>	20,700	19,400	17,300
トレーニング受講数 <sup>14</sup>	1,027,500	1,027,800	1,025,200

## サプライチェーン：施設数

ディズニー・ブランド商品の製造拠点総数 (事業年度) <sup>15</sup>	40,100	37,500	34,200
施設がある国の総数 <sup>15</sup>	102	100	96
施設数が総数に対し1%以下である国の数	90	88	84



サプライチェーン：施設数 - 国別データ <sup>16</sup>	2018年 <sup>1</sup>	2017年	2016年
ディズニー・ブランド商品の製造拠点数（国別）：数（総数の％）			
中国	10,050（25%）	9,500（25%）	9,000（26%）
日本	8,300（21%）	7,800（21%）	7,200（21%）
米国	4,850（12%）	4,500（12%）	3,700（11%）
韓国	1,840（5%）	1,790（5%）	1,500（4%）
ブラジル	1,460（4%）	1,380（4%）	1,270（4%）
イタリア	1,280（3%）	1,290（3%）	1,320（4%）
台湾	1,080（3%）	990（3%）	830（2%）
インド	980（2%）	820（2%）	730（2%）
英国	870（2%）	770（2%）	730（2%）
フランス	820（2%）	780（2%）	710（2%）
ポルトガル	700（2%）	620（2%）	520（2%）
ドイツ	600（1%）	600（1%）	550（2%）
その他すべての施設（施設数が総数の1%以下の国）	7,270（18%）	6,660（18%）	6,140（18%）

### サプライチェーン：改善が必要と判定された指摘事項の割合<sup>15,17,18,19,20</sup>

児童就労	1%	1%	1%
自由意思によらない労働	1%	1%	1%
強制およびハラスメント	0%	0%	0%
差別の禁止	1%	1%	1%
組合	1%	1%	1%
健康および安全：工場	84%	85%	86%
健康および安全：寮	3%	3%	4%
報酬：最低賃金	7%	8%	9%
報酬：時間外賃金	11%	11%	13%
報酬：残業時間 フランス	66%	63%	61%
報酬：社会保障	61%	59%	59%
環境保護	30%	33%	36%
その他の法律	22%	25%	28%
業務の再委託	2%	3%	5%
監視およびコンプライアンス	8%	10%	11%
情報公開	3%	4%	5%

ヘルシー・リビング	2018年 <sup>1</sup>	2017年	2016年
-----------	--------------------	-------	-------

ディズニーの栄養成分に関するフードガイドラインに準拠したライセンス日常食品

全世界	86%	79%	70%
北米 <sup>21</sup>	目標の85%を達成	目標の85%を達成	目標の85%を達成

### データテーブル脚注

- ディズニーの事業年度は通常、当年10月1日に直近の日曜日から翌年9月30日に直近の土曜日までです。
- 当社のGHG目標の領域には、ディズニーが所有および運営する施設（ウォルトディズニー・パーク&リゾート、ディズニー・クルーズライン、商用スペース）、リース資産（ディズニーストア、オフィス所在地）、プロダクション（長編映画、テレビ、劇場、ESPNなど）が含まれます。
- 温室効果ガスの排出量は、世界資源研究所（WRI）と「持続可能な発展のための世界経済人会議（WBCSD）」による温室効果ガスプロトコル「企業の算定・報告基準、2004年改訂版」（GHGプロトコル）の原則に従って測定・算出されています。
- 炭素クレジットは、認定された基準（例：Climate Action Reserve, Verified Carbon Standard, Gold Standardなど）に従って開発されたプロジェクトによるものです。すべてのクレジットは、認定された第三者調査期間が検証しています。炭素クレジットの償却証明書は、当社**ウェブサイトに**掲載されています。
- ディズニーの事業経営をよりの確に反映するために、契約上の商品および特定の排出源に基づく排出係数を使用して、排出量の償却と正味排出量を計算しています。こうした調整により、2018年度におけるディズニーの直接的な排出量と間接的な排出量の合計はCO<sub>2</sub>換算187万トンです。
- 総エネルギーには、電気、天然ガス、冷水、温水、蒸気、再生可能エネルギー、燃料が含まれます。
- 事業経営に伴うリサイクル、堆肥化、寄贈、販売品および清算品、保管品、熱エネルギー変換、非熱エネルギー変換などが転換に該当します。エネルギー回収を伴わない埋め立てや焼却は、廃棄物に該当します。対象施設は、パーク&リゾート、ESPN、エンタープライズ所有施設、ピクサーです。すべてのリース不動産、ディズニーストア、物流センター、テレビ放送局、ラジオディズニー放送局、あらゆる建設資材は、対象から除外されています。
- 水使用量の目標に含まれるのは、ディズニーが所有および運営する施設（パーク&リゾート、ディズニー・クルーズライン、所有する商用スペース、放送局、ESPN）です。ディズニーストアおよびリース資産での水使用量は、対象から除外されています。上海ディズニーランドのデータは、2013年度のベースラインの一部ではないため、この値には含まれていません。2013年度のベースラインは68億6,000万ガロンです。
- 2017年度CSRレポート以降のデータを改訂し、社内審査の結果としてデータに加えられた訂正を反映しました。
- 現金の企業寄付には、ディズニー・コンサベーション・ファンド（DCF）による企業献金が含まれています。現金以外の支援とは、有形物または無形のサポートで構成される現金以外の寄付・寄贈を指します。寄付には、商品、テーマパークのチケット、食品、公共広告（PSA）、キャクター/タレントの出演、その他のチャリティ支援に対する推定金額が含まれますが、これに限定されません。配信、視聴者数、番組製作、利用可能性、価格設定、市場需要などの変動要素における違いがあるため、PSAは当社メディアプラットフォーム間で異なる評価が設定されています。例えば、放送期間内における販売価格の平均に基づいて、PSAが評価される場合があります。また、放送時間帯区分のローテーションにおけるスポンサーシップ価値の平均に基づいて、PSAが評価される場合があります。このため、PSAの評価には複数の手法を採用しています。2017年度は、2件の特別イニシアチブ（メキシコ地震、スペシャルオリンピックス）に対し、生産中止となった玩具ラインの余剰品を特別に寄付すると共に、広告およびPSAによるチャリティ支援を行いました。2018年度は、上記の寄付は行われませんでした。減額の一部は、特別な地域別イニシアチブに対してテーマパークチケットの寄付を増加することで補完されました。
- 従業員統計には、当社の各事業年度末の従業員ベースを反映しています。管理職にはマネージャー以上が含まれます。2018年度末時点におけるザ・ウォルト・ディズニー・カンパニーの全従業員数は約20万1,000人でした。
- 「世界における従業員の多様性」の数値には、当社が導入しているSAPシステム全体の従業員が含まれています。この数値にはピクサーおよびディズニーランド・バリの従業員は含まれていませんが、日雇い従業員および契約従業員を除き、60日以内に賃金の支払いを受けた臨時従業員は含まれます。マイノリティの数と割合には、米国拠点の従業員のみが含まれています。ディズニー・クルーズラインの船上で働く従業員は、国内数から除外されています。
- マイノリティ、女性、身体障害者、退役軍人、傷病退役軍人、LGBTの個人が51%所有・管理・経営しているとして第三者機関から認証を受けた企業への直接支出額が含まれます。
- 研修関連データには、*D Learn*の対象となる全従業員が含まれますが、ピクサー、マーベル、ディズニーランド・バリの各社従業員と契約従業員は除外されています。参加者は、2つ以上のトレーニングへの参加が認められています。トレーニングには、オンラインコース、講習、OJT研修があります。
- データは事業年度内のいずれかの時点で稼働中の施設を含んでおり、四捨五入して百の位の概数としています。
- 施設総数は概算であり、四捨五入されています（国別の施設データ）。
- ディズニーは、リスク分野を特定・比較する際の主な情報源として、世界銀行の「ガバナンス指標」（WGI）を使用し、監視リソースと要件を集中させるべき分野を判断しています。認定調達国に関する方針をご覧ください。
- ILS（国際労働基準）プログラムは、ディズニー・ブランド商品の製造拠点における労働環境の継続的かつ持続可能な改善に向けて取り組んでいます。監査または評価の結果として稼働中の施設で特定されたすべての行動規範に対する違反は、ディズニー・ブランド商品の生産に施設を継続使用する条件として、ILSプログラムが定める期間内に、同プログラムが定める方法で是正または修正される必要があります。
- ディズニー・ブランド商品のサプライチェーンでは、稼働中の施設は日常的に変動しています。2018年には全体の約22%がディズニー・ブランド商品の新規製造者でした。このため、前年比での比較は複雑化しています。
- こうしたカテゴリーで指摘事項が減少しているのは、ディズニーのILSプログラムが定める要件を満たすことに取り組むライセンスィヤベンダーと契約するという継続的な努力の成果です。
- 北米（米国とカナダを含む）については2006年以前の契約合意を除いて計算し、業界内で絶えず変更される子供の栄養に寄与する商品の分類に従っています。業界における分類の評価を世界規模で継続的に実施します。

# The WALT DISNEY Company

詳しくは下記のメディアをご覧ください。

ウェブサイト：

[TheWaltDisneyCompany.com](http://TheWaltDisneyCompany.com)



TWITTER：

[@DisneyCSR](https://twitter.com/DisneyCSR)